

3 生涯学習

～学ぶ意欲を持つ市民が学習することのできる機会や場が得られているまち

<A 基本計画の目標>

地域における人と人との出会い、ふれあい、学び合いを推進し、地域団体や市民団体の活動を支援する中で、市民同士のつながりと支え合いを高めるための機会を設けるとともに連帯感やコミュニティー意識の醸成を図ります。

学習機会の提供にあたっては、個人の需要と社会の要請のバランスを保つとともに、生きがい・教養・人とのつながりなどの追求と職業的知識・技術の習得の調和を考慮します。

市民が主体的に学習活動を展開できる場の確保と利用しやすく質の高い魅力的な施設づくりを進め、いつでも、どこでも、だれもが気軽に学習できる学習環境を整備・充実します。

多様で幅広い学習情報の収集・提供や学習相談体制の整備、学習コーディネーターなどの人材育成を行い、若者を含めあらゆる層の市民の生涯学習を総合的に支援していきます。

学習した成果が就業や社会参加など、さまざまな場面で発揮できるよう民間教育事業者や関係機関と連携を図りながら、職業能力の向上につながる学習機会の提供に努めます。

あらゆる場面において市民参画ができる機会・場の拡充と市民、行政、民間教育事業者や関係機関が一体となった効率的・効果的な推進体制を整備します。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	54.8 %	53.4 %	55.6 %	54.3 %	55.7 %	↑

<C 目標達成に向けた25年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【教育部】	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティア団体である「鎌倉市生涯学習推進委員会」に生涯学習推進事業を委託することにより、様々な世代を対象とした市民ニーズに即した各種講座・イベントを企画・実施することができました。 ・生涯学習情報誌「鎌倉萌」を発行するとともに、ホームページ上にも掲載することで、市の主催事業のみならず、様々な団体による講座・イベントなどの情報を広く周知することができました。 ・生涯学習プランの進行管理について、各課に照会を行い、状況把握に努めました。 ・生涯学習ガイドブックを作成し、生涯学習情報、生涯学習指導者一覧、サークル団体一覧等の情報を提供しました。 ・教育機関による高度な学習機会を設けるため、早見芸術学園と連携し、公開講座を実施しました。 	◎
<ul style="list-style-type: none"> ・策定した第二次鎌倉市子ども読書活動推進計画により、学校や地域住民、おはなしボランティアとの協力を得ながら、より一層の子どもの読書環境整備を図りました。 ・近代史資料室担当として寄贈や古書などの購入により資料収集を行いました。また、貴重書等のデジタル化を進め、デジタル資料の中央図書館内での閲覧を行うなど、資料保存と公開・展示に努めました。 ・図書館振興基金への募金のPRに努めたほか、雑誌スポンサー制度等を整備し、ホームページへのスポンサー導入等を行いました。 ・市史編さん事業の一環として、歴史的公文書等選別のためのガイドライン及び細目基準を作成しました。 	◎

【文化財部】

温湿度が一定に保たれた良好な環境で文化財の展示を行えるようにするため、老朽化した鎌倉国宝館本館展示場空調機器の大規模修繕工事を実施しました。



前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 8年間(平成18～25年度まで)の取組の評価>

【教育部】

市民の学習ニーズはますます増大し、高度化・多様化する中、市民ボランティア団体である鎌倉市生涯学習推進委員会に講座・イベント等の事業を委託し実施することで市民のニーズを踏まえた事業を展開することができました。また、地域における絆が希薄化する中で、各地域の学習センターが地域の核となり、講座・イベントを企画・実施するとともに、地域で生涯学習活動を行っている市民の活動発表の場として、市民と協働でフェスティバルを開催し、地域の連携を深めることができました。これらの取組により、市民満足度は増加傾向にあります。

図書館に関しては、システム改修や市民協働による図書館振興事業、電子図書館実証実験などを行い、サービスの向上をめざしてきました。未利用者の登録への働きかけなど反省点を明確にし、それらの結果を踏まえ、サービスの在り方について検討していく必要があります。

【文化財部】

学習環境の整備・充実に向け、鎌倉国宝館の博物館としての活動・機能・資料の充実やすぐれた教材を提供するとともに、貴重な文化財の保存に努めてきました。

今後とも、優れた生涯学習の場を提供するとともに、文化財の適正な保存環境を維持するうえで、大規模修繕施工後20年を経過した施設の老朽化への対応や、東日本大震災規模の地震をも想定した、耐震対策が求められています。

<E 25年度までの未達成事業の課題・問題点など>

【教育部】

鎌倉生涯学習センターは、建築から30年を経過し、施設の老朽化が進行しており、今後は計画的な予防修繕が必要となっていますが、厳しい財政事情により、十分な予防修繕ができていないのが現状です。

中央図書館は、建築から39年を経過し、施設・設備の老朽化が進行しています。計画的な予防修繕が必要ですが、緊急修繕しかできていないのが現状です。平成26年度実施予定の耐震診断による耐震工事に合わせ安全安心の施設をめざします。

【文化財部】

特にありません。

<F この分野の取組が含まれる第3期基本計画の施策の方針>

【教育部】

分野名	施策の方針名
生涯学習	多様な学習機会の提供と学習成果の活用
	学習環境の整備・充実

【文化財部】

分野名	施策の方針名
生涯学習	多様な学習機会の提供と学習成果の活用
	学習環境の整備・充実

<G F欄の施策の方針における今後の展開(取組方針)>

【教育部】

施策の方針名	今後ますます高齢化が進み、また心の豊かさを求める市民が増加する中で、生涯学習が果たす役割はますます増大していくと考えられます。このため、より一層市民団体や関係機関と連携し、市民が持っている知識や技術を活用した学習の機会や場の提供を行っていきます。
多様な学習機会の提供と学習成果の活用	
施策の方針名	生涯学習の拠点として鎌倉生涯学習センターを中心とした学習環境について、築30年となった鎌倉生涯学習センターの維持修繕に努め、利用しやすく、快適な環境の整備・充実を図っていきます。
学習環境の整備・充実	中央図書館については、平成26年度実施予定の耐震診断による耐震工事に合わせ施設修繕で安全安心の施設をめざします。

【文化財部】

施策の方針名	鎌倉国宝館における展示や講演会などの活動を通じ、本市の持つ歴史や文化に関する学習機会の提供に努めます。
多様な学習機会の提供と学習成果の活用	
施策の方針名	鎌倉の歴史や文化に関する学習環境を充実させるため、鎌倉国宝館における展示や講演会など博物館活動の充実に努めます。
学習環境の整備・充実	

<H 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	H22年度 目標値	H27年度 目標値
生涯学習センター利用者数(+)	中央、腰越、深沢、大船、玉縄の5地域にある生涯学習センターの、年間利用者数の合計	544,960 人	581,424 人	644,560 人	575,308 人	568,377 人	551,000 人	556,000 人
図書館資料の年間貸出数(+)	中央図書館及び地域館の図書館資料の年間貸出数の合計	1,241,035 冊	1,593,449 冊	1,560,420 冊	1,519,789 冊	1,427,706 冊	1,303,000 冊	1,363,000 冊
図書館の利用度(+)	ここ1年間で図書館を利用した市民の割合	42.8 %	41.0 %	38.3 %	40.8 %	43.1 %	45.3 %	47.8 %

<I 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	472,284千円	468,275千円	398,586千円	393,716千円	378,700千円	1,972,504千円		
	(国・県)	3,068千円	9,943千円	508千円	14,651千円	480千円	7,666千円		
	(負担金等)	78,047千円	74,823千円	66,480千円	71,347千円	70,262千円	133,810千円		
	(一般財源)	391,169千円	383,509千円	331,598千円	307,718千円	307,958千円	1,831,028千円		
	人員配置数	38.6人	36.6人	36.8人	34.8人	32.2人	37.0人		
	人件費 (B)	347,774千円	329,371千円	320,554千円	300,540千円	257,247千円	282,923千円		
	総事業費 (A+B)	820,058千円	797,646千円	719,140千円	694,256千円	635,947千円	2,255,427千円		
	対前年比		97.3%	90.2%	96.5%	91.6%	354.7%		

鎌倉市民評価委員会の評価

◎ この分野の8年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見

- ・世代間交流、若年層や主婦を対象とした取組などが見られるが、体系立てた取組にはなっていない。
- ・「鎌倉市生涯学習プラン」として、鎌倉という文化を生かした生涯学習について、様々な角度から目的と具体的事業及び実施責任を明確にしたプランを策定したことは大いに評価できるが、プランがどの様に実施されているのか、確認や報告がされていない。
- ・生涯学習への市民の期待は高まる傾向にあり、様々なイベントや講座開催を実現してきていることは十分評価できる。「鎌倉市生涯学習推進委員会」に生涯学習推進事業を委託したことにより、様々な世代を対象にした講座・イベントを実施し、市民のニーズに応え、生涯学習センターの利用者も増加させることができた。各地域の学習センターで行われる学習発表の場であるフェスティバル(文化祭)が盛況であり、ボランティア団体への委託事業が軌道に乗っていると思われる。
- ・生涯学習を単に市民の学習の場というだけに留まらせていくだけではなく、さらにそれを一歩進めていく知識を伝えて地域貢献していくという別の目標を持つべきである。
- ・「鎌倉萌」の内容が豊富であり、有用な情報誌である。
- ・第2次鎌倉市子ども読書活動推進計画により、子どもの読書環境整備を図った。

きわめて優れていた：◎
十分であった：○
不十分であった：△

○

◎ 第3期基本計画に向けたこの分野に関する意見

- ・一つ一つの施策を推進するにあたって、学んだものを地域や子どもたちに伝えていくという波及効果を目指すべきである。還元しやすい仕組みのようなものが欲しい。
- ・これまでの講座等を見直し、多様な学習機会を市民と共にどうしたら創り出せるか？施策はどこまで必要なのか？といった推進方法の検討が必要かもしれない。
- ・市民が教えられる(学ぶ)を重点に置かれているが、実際に人に教えることは、自分が学ぶことでもある。年配者から年少者へ鎌倉の文化を教える(伝える)、または、年少者から年配者へタブレット端末の使い方等、相互に教え合い、交流するような視点の事業も重視して頂きたい。
- ・老朽化した生涯学習センターの整備が必要。市民が国宝館などの文化財に親しめる企画が欲しい。
- ・生涯学習センターは図書館を主体としながらも、地域における多様な学習・交流の場・ふれあいの場等複合施設として利用価値を高めてもらいたい。

◎ この分野の指標に関する意見

- ・満足度は概ね目標値に達している。要因として関係者の尽力を多とするが、目標値(H22:55%、H27:56%)が当初値(54.8%)の0.4%及び2.0%しかアップしておらず、低く設定されていたことにもよる。
- ・市民満足度が上がっているのは高齢化が進んでいるのではないかとも考えられる。今後も創意工夫してほしい。
- ・現在の指標も必要と考えるが、施設を利用する事と、その施設に満足しているかは別である。また、プランに具体的な目標が掲げられているので、その達成状況を指標とすべきである。
- ・学ぶ意欲の上昇は大きく、期待は大きい。しかし、図書貸出数が下降気味で市民の求める生涯学習が多様化してきているのかもしれない。
- ・生涯学習センターの利用者の年代別利用者数が分かると良いと思う。現在は子育てサロンや青少年のイベントなどで幼児や子どもの利用も増えている。

◎ この分野に関する総括意見

- これまでの生涯学習の推進は十分であったかもしれないが、これからのあり方は多様化が起こることが予測でき、何処まで鎌倉市が介入をしていくかは検討が必要である。
- 生涯学習は本人が主体性をもって実践すべきものであって、他から強制されては効果が上がらない。自発的な習い事は人生を生き生きとさせてくれる。習い事は自費負担が伴わないと身に付かない。
- せつかく明確なプランが立てられているので、一つ一つの施策(事業)を行うための予算を加味したタイムスケジュールを作成し、着実に事業を推進して頂きたい。
- 生涯学習センターは、鎌倉と各地域に計5館ある。いずれも利用率が高く、部屋が取りにくい等の課題があるが、地域の身近な存在であり、地域福祉の活動場所も担っている。今後の施策も期待したい。
- 学校教育と生涯学習の間に生涯教育の存在が必要と考える。趣味や生き甲斐対策の延長のみで生涯学習を捉えるのではなく、「平和・人権」「男女共同参画社会」「多文化共生社会」「健康福祉」等と連携し、親世代の再教育の場にも貢献して欲しい。「鎌倉市生涯学習プラン」においても、「歴史環境」や「文化」「男女共同参画社会」等様々な分野に関する事業についても言及されているため、他の分野との連携を密接にしていく必要がある。